

令和4年6月14日  
【内閣府】

## 【概要書】

令和3年度 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況  
令和4年度高齢社会対策  
(令和4年版高齢社会白書)

標記の報告書を衆議院議長に提出いたしました。

連絡先は省略。

**令和3年度**

**高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況**

**令和4年度高齢社会対策  
(令和4年版高齢社会白書)**

**〈概要〉**

令和4年6月

内閣府

この文書は、「高齢社会対策基本法」(平成7年法律第129号)第8条の規定に基づき、「高齢化の状況及び政府が講じた高齢社会対策の実施の状況」及び「高齢化の状況を考慮して講じようとする施策」について報告を行うものである。

# 高齢社会白書

「高齢社会対策基本法」に基づき、毎年、国会に提出（法定白書）。今回で27回目。

〈高齢社会対策基本法〉

第8条 政府は、毎年、国会に、高齢化の状況及び政府が講じた高齢社会対策の実施の状況に関する報告書を提出しなければならない。

2 政府は、毎年、前項の報告に係る高齢化の状況を考慮して講じようとする施策を明らかにした文書を作成し、これを国会に提出しなければならない。

## 第1章 高齢化の状況

第1節 高齢化の状況（高齢化の推移と将来推計）

第2節 高齢期の暮らしの動向（就業率の推移、健康寿命と平均寿命の推移、75歳以上の運転者による死亡事故件数等）

第3節 〈特集〉高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査  
〈トピックス〉

- 1 グリーンスローモビリティの取組事例
- 2 デジタルを活用し高齢者と地域のつながりを生み出している事例
- 3 高齢者雇用の推進の取組事例
- 4 社会活動への参加促進の取組事例
- 5 誰もが健やかに暮らせる地域づくりの取組事例

## 第2章 令和3年度高齢社会対策の実施の状況

第1節 高齢社会対策の基本的枠組み

第2節 分野別の施策の実施の状況（令和3年度に各府省庁が講じた施策）

- 1 就業・所得
- 2 健康・福祉
- 3 学習・社会参加
- 4 生活環境
- 5 研究開発・国際社会への貢献等
- 6 全ての世代の活躍推進

### 第3章 令和4年度高齢社会対策

第1節 令和4年度の高齢社会対策の基本的な取組

第2節 分野別の高齢社会対策（令和4年度の各府省庁の主な施策）

- 1 就業・所得
- 2 健康・福祉
- 3 学習・社会参加
- 4 生活環境
- 5 研究開発・国際社会への貢献等
- 6 全ての世代の活躍推進

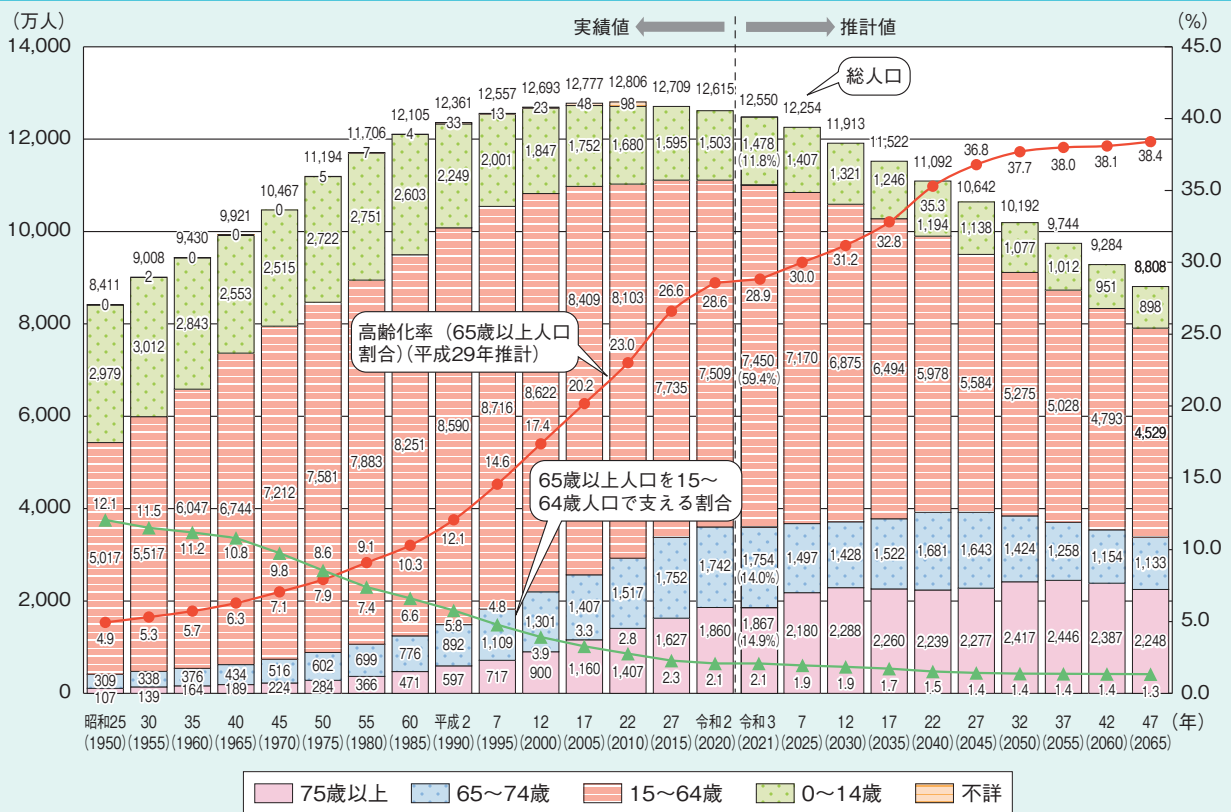
# 第1章 高齢化の状況

## 第1節 高齢化の状況

### ○高齢化率は28.9%

- ・我が国の総人口は、令和3年10月1日現在、1億2,550万人。
- ・65歳以上人口は、3,621万人。総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は28.9%。
- ・「65歳～74歳人口」は1,754万人、総人口に占める割合は14.0%。「75歳以上人口」は1,867万人、総人口に占める割合は14.9%で、65歳～74歳人口を上回っている。
- ・令和47年には、約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上。

図1-1-1 高齢化の推移と将来推計



資料：棒グラフと実線の高齢化率については、2020年までは総務省「国勢調査」（2015年及び2020年は不詳補完値による。）、2021年は総務省「人口推計」（令和3年10月1日現在（令和2年国勢調査を基準とする推計値））、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

(注1) 2015年及び2020年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。2021年の年齢階級別人口は、総務省統計局「令和2年国勢調査」（不詳補完値）の人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。2025年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950～2010年の高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。ただし、1950年及び1955年において割合を算出する際には、(注2)における沖縄県の一部の人口を不詳には含めないものとする。

(注2) 沖縄県の昭和25年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び昭和30年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）は65～74歳、75歳以上の人口から除き、不詳に含めている。

(注3) 将来人口推計とは、基準時点までに得られた人口学的データに基づき、それまでの傾向、趨勢を将来に向けて投影するものである。基準時点以降の構造的な変化等により、推計以降に得られる実績や新たな将来推計との間には乖離が生じ得るものであり、将来推計人口はこのような実績等を踏まえて定期的に見直すこととしている。

(注4) 四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

### 「高齢者」とは

高齢者の用語は文脈や制度ごとに対象が異なり、一律の定義がない。「高齢社会対策大綱」（平成30年2月閣議決定）では、便宜上、一般通念上の「高齢者」を広く指す語として用いている。本白書においても、各種の統計や制度の定義に従う場合のほかは、一般通念上の「高齢者」を広く指す語として用いることとする。

なお、高齢者の定義と区分に関しては、日本老年学会・日本老年医学会「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ報告書」（平成29年3月）において、75歳以上を高齢者の新たな定義とすることが提案されている。

また、「高齢社会対策大綱」においても、「65歳以上を一律に「高齢者」と見る一般的な傾向は、現状に照らせばもはや現実的なものではなくつつある。」とされている。

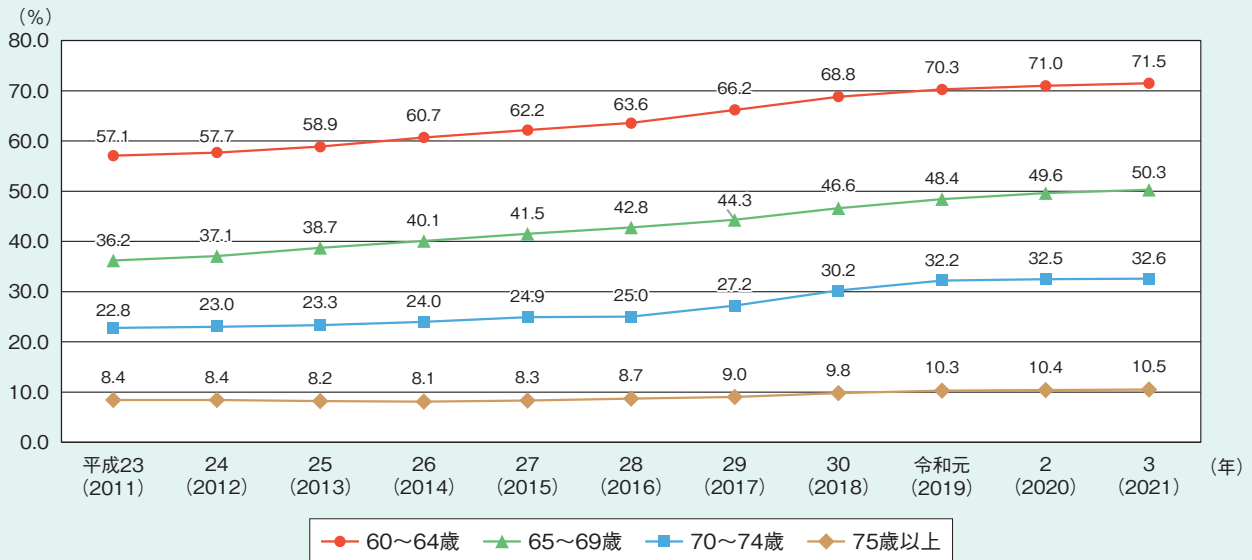
※なお、本白書では原則として65歳以上75歳未満、75歳以上に分けて記載している。

## 第2節 高齢期の暮らしの動向

### ○就業率の推移

- ・就業率の推移を見ると、60～64歳、65～69歳、70～74歳、75歳以上では、10年前の平成23年の就業率と比較して、令和3年の就業率はそれぞれ14.4ポイント、14.1ポイント、9.8ポイント、2.1ポイント伸びている。

図1-2-1 年齢階級別就業率の推移



資料：総務省「労働力調査」

(注1) 年平均の値

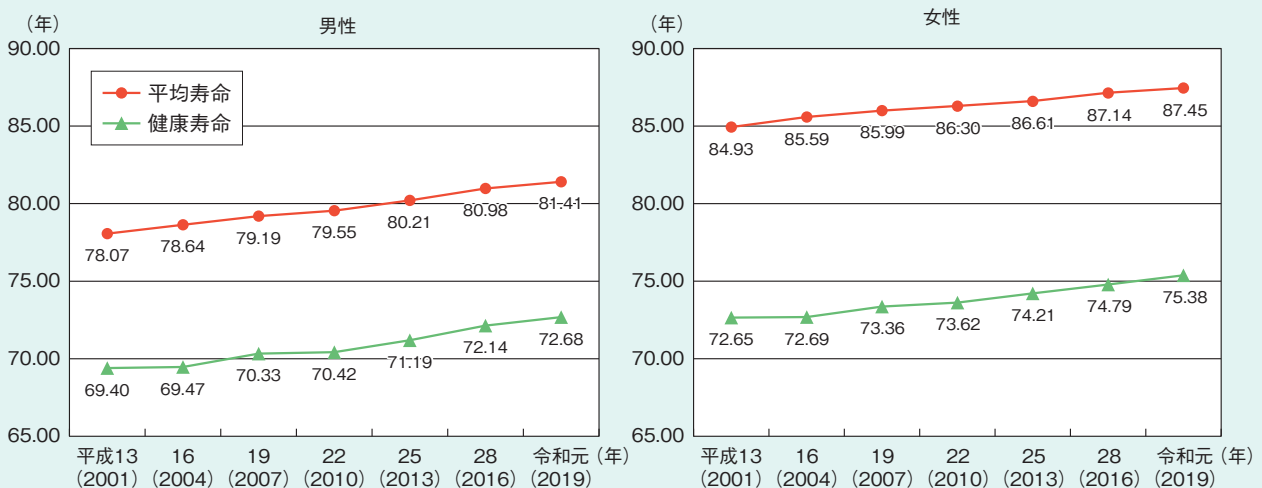
(注2) 「就業率」とは、15歳以上人口に占める就業者の割合をいう。

(注3) 平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

### ○健康寿命は延伸し、平均寿命と比較しても伸びが大きい

- ・日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、令和元年時点で男性が72.68年、女性が75.38年となっており、それぞれ平成22年と比べて延びている（平成22年→令和元年：男性2.26年、女性1.76年）。さらに、同期間における健康寿命の伸びは、平均寿命の伸び（平成22年→令和元年：男性1.86年、女性1.15年）を上回っている。

図1-2-2 健康寿命と平均寿命の推移



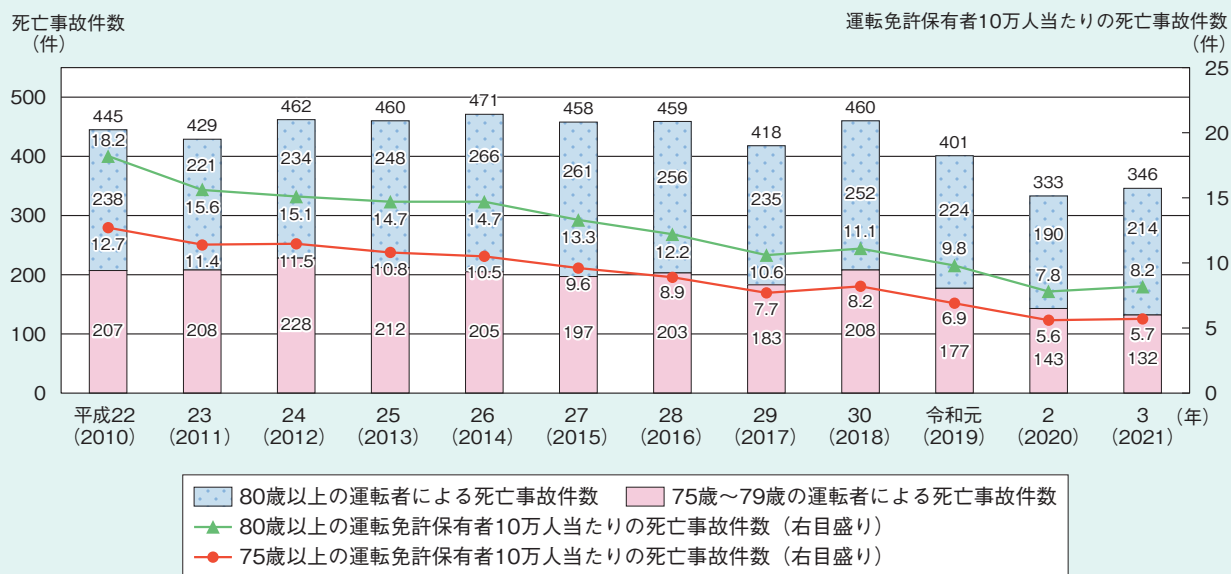
資料：平均寿命：平成13・16・19・25・28年・令和元年は、厚生労働省「簡易生命表」、平成22年は「完全生命表」

健康寿命：厚生労働省「第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会資料」

○75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は減少傾向

・75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は減少傾向にある。ただし、令和3年における運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は、75歳以上で5.7件、80歳以上で8.2件であり、前年と比較すると若干増加している。

図1-2-3 75歳以上の運転者による死亡事故件数及び75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数



75歳以上の運転免許保有者数(万人)

平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
351	375	403	425	447	478	513	540	564	583	590	610
うち、80歳以上											
131	141	155	169	180	196	209	221	227	229	243	262

資料：警察庁統計による。

(注1) 各年は12月末の運転免許保有者数である。

(注2) 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。



### 第3節 〈特集〉高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査（概要）

内閣府では、「高齢社会対策大綱」（平成30年2月閣議決定）に基づく、「就業・所得」「健康・福祉」「学習・社会参加」「生活環境」「研究開発・国際社会への貢献等」の分野を踏まえて、高齢社会対策に関する調査を実施しており、令和3年度は「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」（調査時期は令和3年12月）を実施した。以下において、その結果の一部について紹介する。

なお、本調査は60歳以上の男女を対象としているが、本白書では65歳以上の男女の集計結果を紹介する。

#### 1 生きがいを感じる程度について

生きがいを「十分感じている」が22.9%、「多少感じている」が49.4%となっており、合計すると72.3%となっている。

図1-3-1 生きがい（喜びや楽しみ）を感じる程度について（年齢・性別）

		(%)				
		十分感じている	多少感じている	あまり感じて いない	まったく感じて いない	不明・無回答
65歳以上	全体(n=2,049)	22.9	49.4	17.8	2.7	7.2
	男性(n=984)	23.0	50.1	19.2	2.1	5.6
	女性(n=1,065)	22.9	48.7	16.4	3.2	8.7
65~74歳	男性(n=565)	24.2	52.9	17.2	1.8	3.9
	女性(n=545)	25.7	51.0	14.9	1.8	6.6
75歳以上	男性(n=419)	21.2	46.3	22.0	2.6	7.9
	女性(n=520)	20.0	46.3	18.1	4.6	11.0

※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

## 2 日常生活の状況について

### (1) 近所の人との付き合い方について

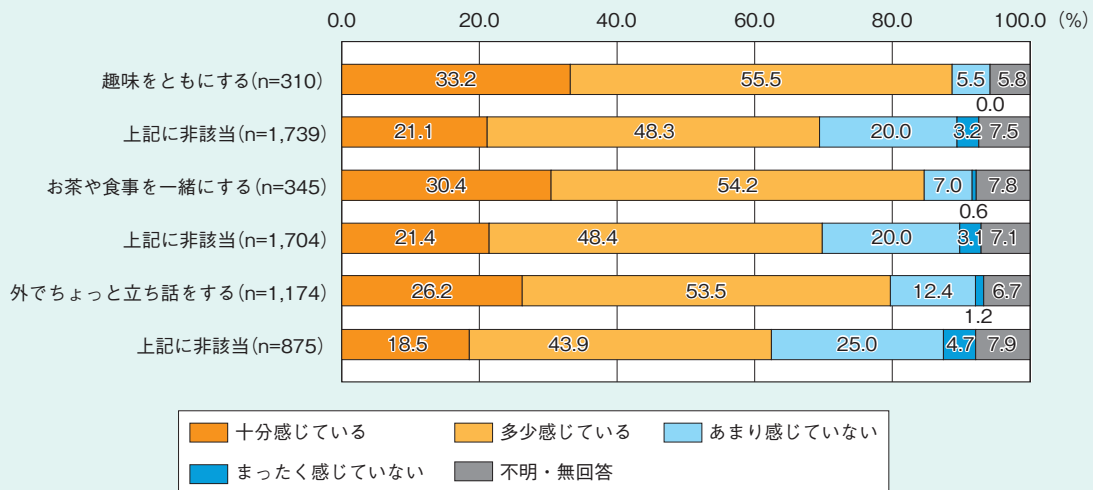
82.8%が「会えば挨拶をする」、57.3%が「外でちょっと立ち話をする」と回答している。

また、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合は、「趣味をともにする」と回答した人では33.2%、「お茶や食事を一緒にする」と回答した人では30.4%、「外でちょっと立ち話をする」と回答した人では26.2%と、いずれもこうした付き合いをしていない人に比べ、高くなっている。

図1-3-2 近所の人との付き合い方（複数回答）（年齢・性別）

		会えば挨拶をする	外でちょっと立ち話をする	物をあげたりもらったりする	相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	お茶や食事を一緒にする	趣味をともにする	病気の時に助け合う	家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	その他	不明・無回答
65歳以上	全体 (n=2,049)	82.8	57.3	50.8	20.3	16.8	15.1	7.5	7.3	2.9	0.7
	男性 (n=984)	83.9	50.9	46.2	17.2	10.1	14.5	6.0	7.3	2.0	0.4
	女性 (n=1,065)	81.7	63.2	54.9	23.2	23.1	15.7	8.9	7.2	3.8	1.0
65～74歳	男性 (n=565)	86.0	49.0	43.4	12.6	6.2	10.6	3.4	5.5	1.8	0.2
	女性 (n=545)	84.2	68.4	54.7	21.3	22.6	12.3	6.6	3.5	1.8	0.2
75歳以上	男性 (n=419)	81.1	53.5	50.1	23.4	15.3	19.8	9.5	9.8	2.4	0.7
	女性 (n=520)	79.0	57.7	55.2	25.2	23.7	19.2	11.3	11.2	5.8	1.9

図1-3-3 生きがいを感じる程度について（近所の人との付き合い方別）



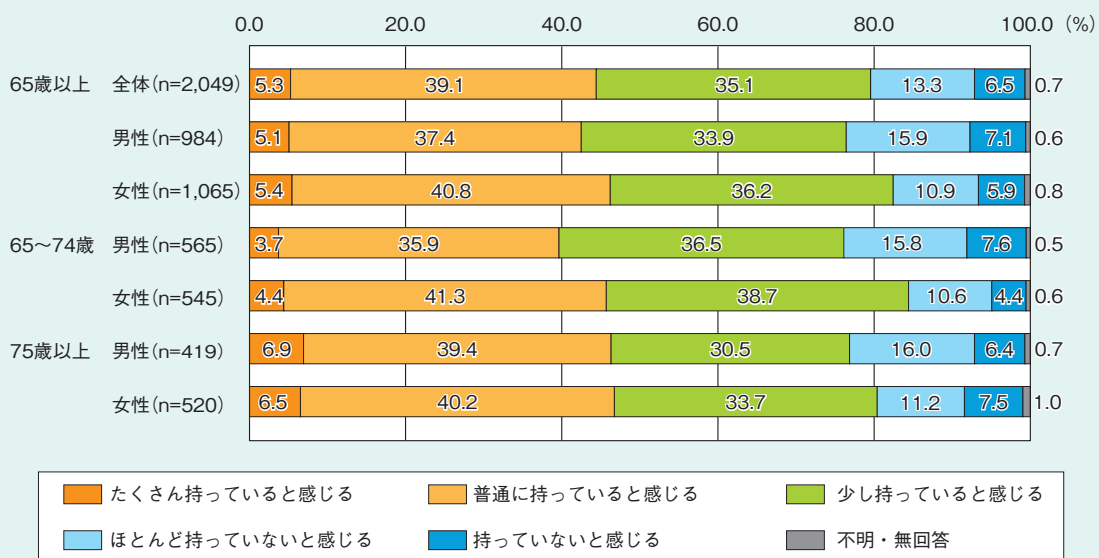
※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

(2) 親しくしている友人・仲間をどの程度持っているかについて

「普通に持っていると感じる」(39.1%) が最も高く、次いで、「少し持っていると感じる」(35.1%) となっており、「たくさん持っていると感じる」(5.3%) を合わせ、79.6%が親しい友人・仲間を持っていると回答している。

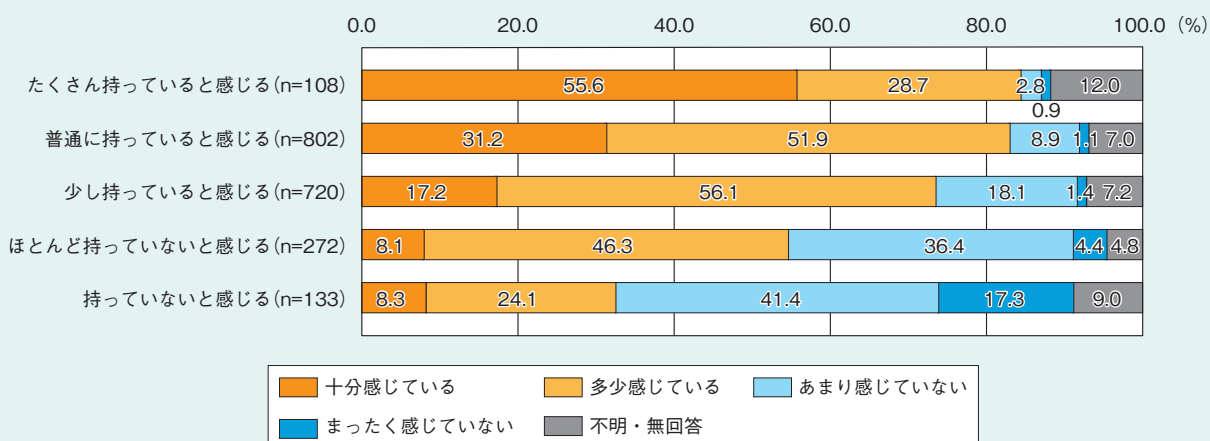
また、親しくしている友人・仲間を、より多く持っていると感じた人ほど、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合は高くなっている。

図1-3-4 親しくしている友人・仲間をどの程度持っていると感じるか (年齢・性別)



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

図1-3-5 生きがいを感ずる程度について (親しくしている友人・仲間を持っている程度別)

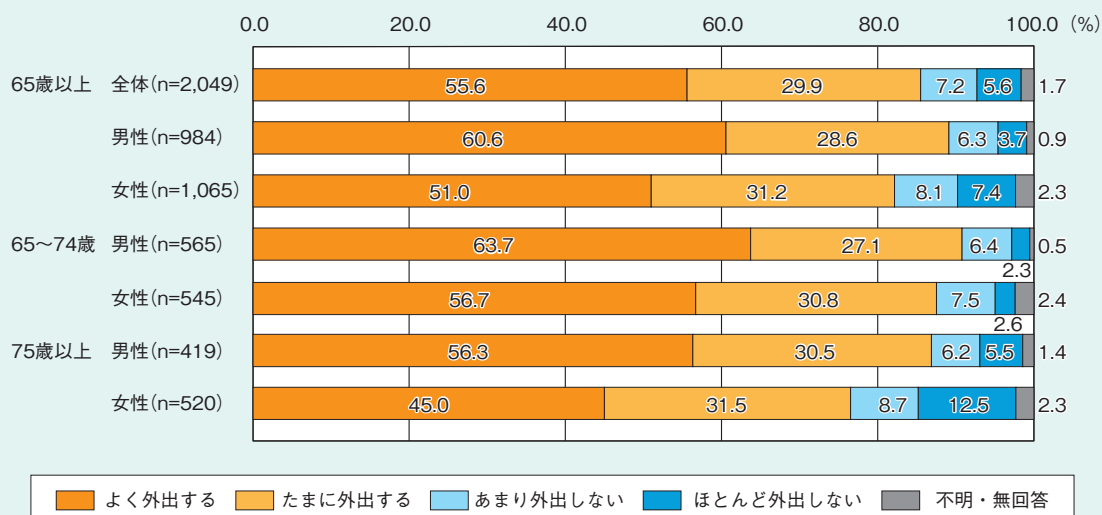


※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

### (3) ふだんの外出について

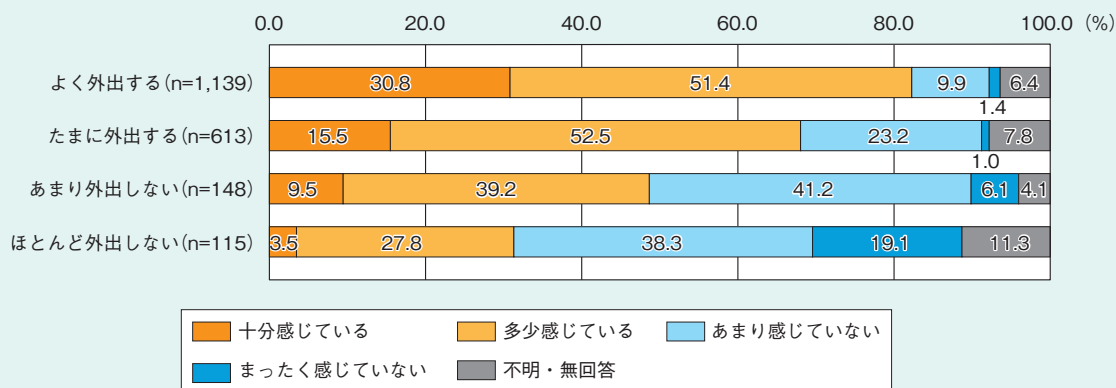
「よく外出する」が55.6%、「たまに外出する」が29.9%となっており、合計すると85.5%となっている。また、外出頻度が高い人ほど生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合は高くなっている。

図1-3-6 ふだん（散歩なども含め）外出するか（年齢・性別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

図1-3-7 生きがいを感ずる程度について（外出頻度別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

#### (4) 情報機器の利用内容について

「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」(23.7%)が最も高い。一方、「情報機器を使わない」と回答している人が17.0%となっており、中でも75歳以上の人は「情報機器を使わない」と回答した割合が高い。

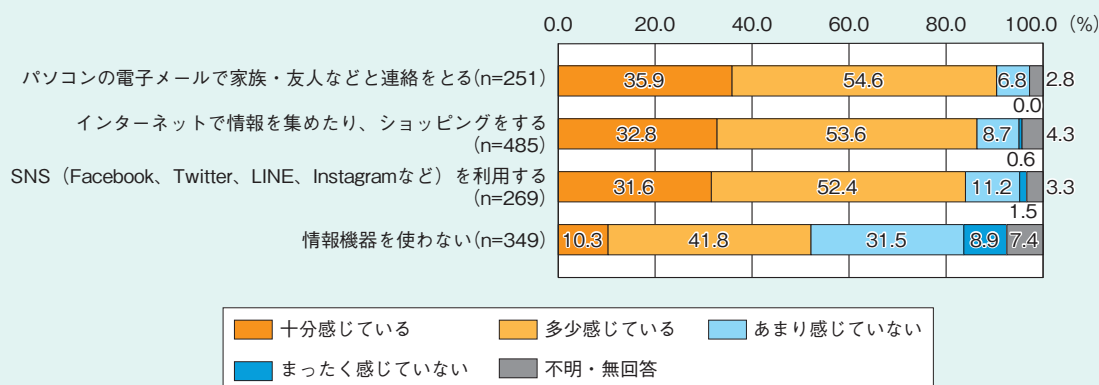
また、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合は、「情報機器を使わない」と回答した人では10.3%であるのに比べて、「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」「SNS (Facebook、Twitter、LINE、Instagram など) を利用する」と回答した人では3割を超えている。

図1-3-8 情報機器の利用内容（複数回答）（年齢・性別）

		(%)				
		インターネットで 情報を集めたり、 ショッピングをする	SNS (Facebook、 Twitter、LINE、 Instagramなど) を利用 する	パソコンの電子メー ルで家族・友人など と連絡をとる	情報機器を使わない	
65歳以上	全体(n=2,049)	23.7	13.1	12.2	17.0	
	男性(n=984)	32.9	15.7	18.1	15.5	
	女性(n=1,065)	15.1	10.8	6.9	18.4	
65~74歳	男性(n=565)	44.2	21.6	22.3	8.5	
	女性(n=545)	24.0	15.8	9.7	7.5	
75歳以上	男性(n=419)	17.7	7.6	12.4	25.1	
	女性(n=520)	5.8	5.6	3.8	29.8	

※ 「情報機器の利用内容」の回答項目は、「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」「SNS (Facebook、Twitter、LINE、Instagram など) を利用する」「ファックスで家族・友人などと連絡をとる」「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる」「ホームページやブログへの書き込みまたは開設・更新をする」「ネットバンキングや金融取引(証券・保険取引など)をする」「国や行政の手続きをインターネットで行う(電子政府・電子自治体)」であり、「情報機器を使わない」とは、これらのいずれにも該当しない人をいう。

図1-3-9 生きがいを感じる程度について（情報機器の利用内容別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

### 3 社会活動等への参加について

#### (1) 現在の収入の伴う仕事について

自営農林漁業、自営商工サービス業、会社または団体の役員、フルタイムの被雇用者、パートタイム・臨時の被雇用者を合わせて30.2%が、収入の伴う仕事をしていると回答している。

また、収入の伴う仕事をしている人の方が、収入の伴う仕事をしていない人よりも、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合が高い。

図1-3-10 現在の収入の伴う仕事（年齢・性別）

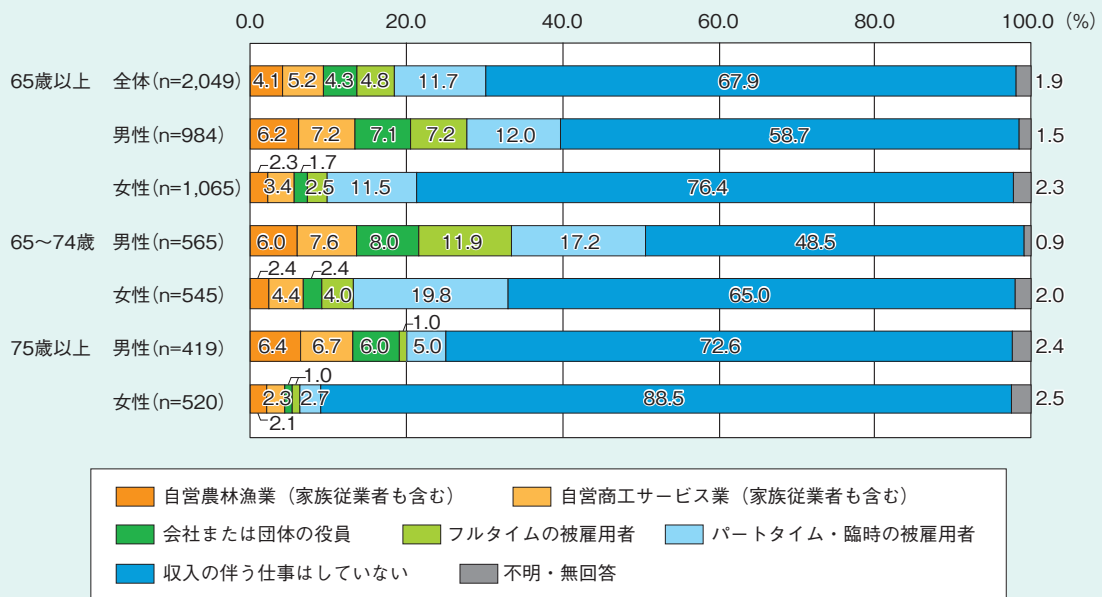
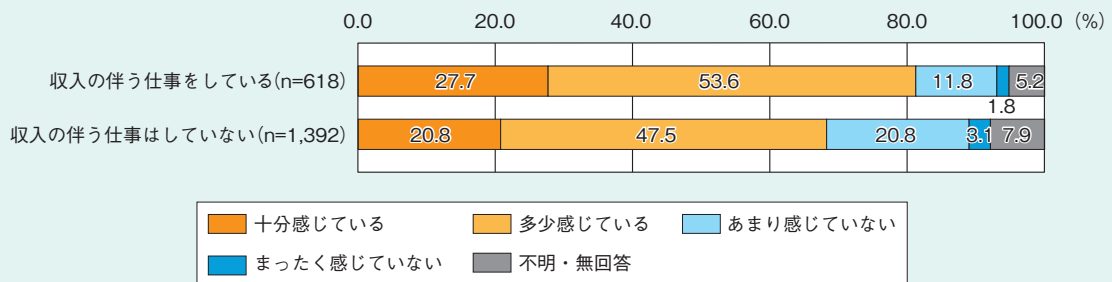


図1-3-11 生きがいを感じる程度について（収入の伴う仕事の有無別）



## (2) 社会活動への参加について

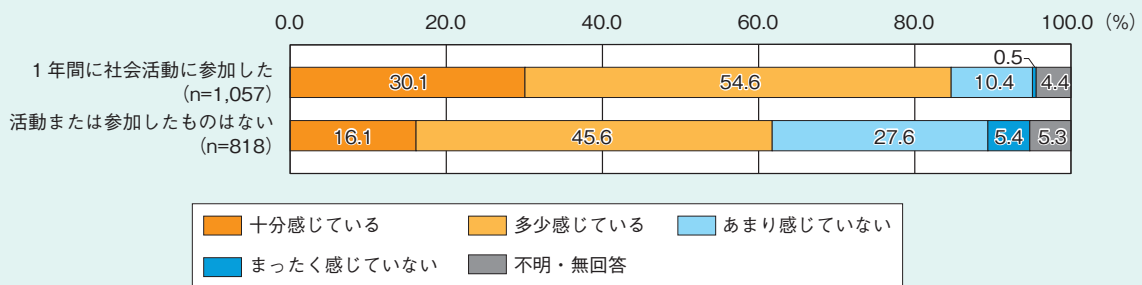
社会活動に参加した人は51.6%となっている。活動内容については、「健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等）」(27.7%)、「趣味（俳句、詩吟、陶芸等）」(14.8%) などとなっている。

また、社会活動に参加した人の方が、参加していない人よりも、生きがいを「十分感じている」と回答した割合が高い。

図1-3-12 過去1年間の社会活動への参加（複数回答）（年齢・性別）

		健康・スポーツ(体操、歩こう会、ゲートボール等)	趣味(俳句、詩吟、陶芸等)	地域行事(祭りなどの地域の催しもの世話等)	生活環境改善(環境美化、緑化推進、まちづくり等)	生産・就業(生きがいのための園芸・飼育、シルバー人材センター等)	安全管理(交通安全、防犯・防災等)	教育関連・文化啓発活動(学習会、子ども会の育成、郷土芸能の伝承等)	高齢者の支援(家事援助、移送等)	子育て支援(保育への手伝い等)	その他	1年間に活動または参加した(再掲)	活動または参加したものはない	不明・無回答
65歳以上	全体(n=2,049)	27.7	14.8	13.2	10.1	7.4	6.1	4.6	2.4	2.0	2.3	51.6	39.9	8.5
	男性(n=984)	26.3	11.3	19.1	14.7	9.9	9.8	6.1	1.9	1.8	2.5	55.0	39.1	5.9
	女性(n=1,065)	28.9	18.0	7.8	5.8	5.2	2.8	3.3	2.8	2.3	2.1	48.5	40.7	10.9
65~74歳	男性(n=565)	25.7	10.3	18.8	15.9	9.4	10.6	6.5	2.1	1.9	2.5	54.2	41.6	4.2
	女性(n=545)	30.3	19.4	8.3	7.2	5.7	3.3	4.6	2.9	3.7	1.7	50.6	41.8	7.5
75歳以上	男性(n=419)	27.2	12.6	19.6	13.1	10.5	8.6	5.5	1.7	1.7	2.6	56.1	35.8	8.1
	女性(n=520)	27.5	16.5	7.3	4.4	4.6	2.3	1.9	2.7	0.8	2.5	46.2	39.4	14.4

図1-3-13 生きがいを感ずる程度について（社会活動への参加の有無別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

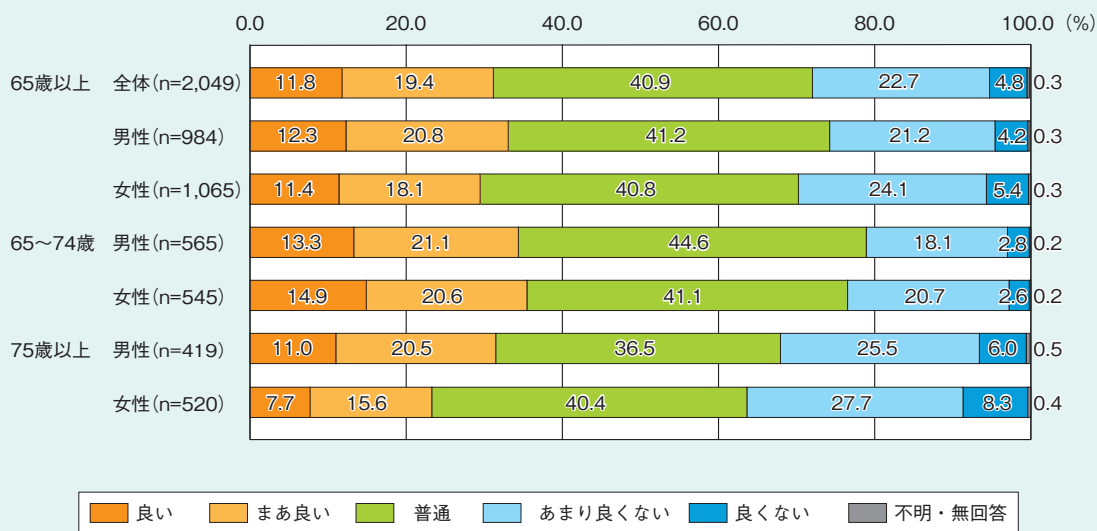
## 4 健康について

### 現在の健康状態について

「良い」「まあ良い」と回答した人が31.2%となっている。

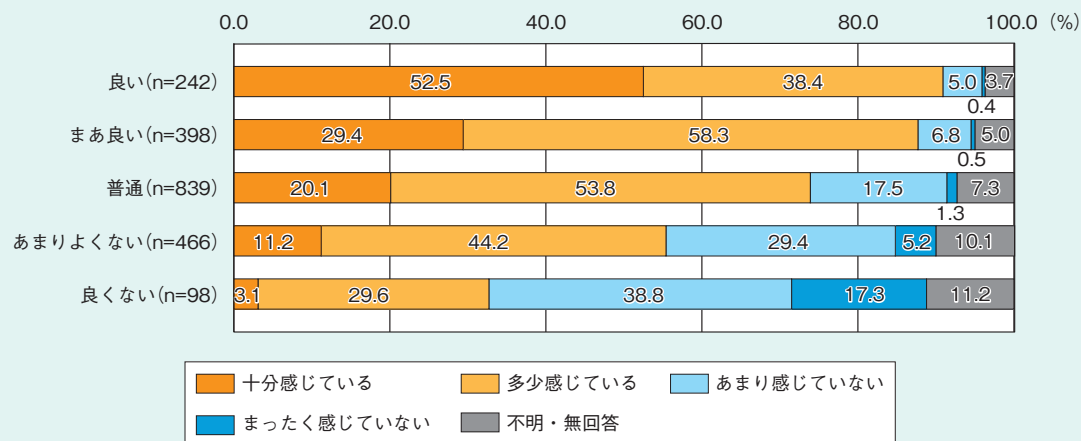
また、健康状態が良い人の方が、良くない人よりも、生きがいを「十分感じている」と回答した割合が高い。

図1-3-14 現在の健康状態（年齢・性別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

図1-3-15 生きがいを感ずる程度について（現在の健康状態別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。



## 5 まとめ

今後も、一層の高齢化の進行が見込まれる中、高齢者が生きがいを持って満ち足りた人生を送るためには、身近な地域での居場所や役割、友人・仲間とのつながりを持つこと、デジタルデバイド解消に向けた支援等が重要となってくると考えられる。

また、高齢者が、様々な就業や社会活動への参加の機会が得られるよう、環境整備を図るとともに、生涯にわたる健康づくりを推進していくことが重要である。

### (トピックス1) デジタルを活用し高齢者と地域のつながりを生み出している事例

富山県朝日町は(株)博報堂と連携して、地域における高齢者の移動の課題を解決するため、住民の普段のマイカー移動の際に、自由に移動しづらい近所の高齢者を乗せる乗合サービス「ノッカル」の取組を令和3年10月から本格実施している。利用者向けの予約システム、ドライバー向け運行管理システムを活用し、高齢者の移動支援が行われるとともに、世代を超えた交流も生まれている。

### (トピックス2) 高齢者雇用の推進の取組事例

(株)ノジマは社会に貢献する経営を目指し、高齢者の雇用機会の創出のため、平成25年4月に定年を60歳から65歳へ引き上げ、令和2年7月に定年後の再雇用年齢の年齢上限を80歳に引き上げた。再雇用された高齢者が同世代の客層の根強い支持を得るとともに、若い従業員の良き相談役となっている。

### (トピックス3) 社会活動への参加促進の取組事例

大阪市鶴見区において、定年退職後の高齢者の地域での居場所づくりや社会活動への参加が課題となっており、それを促すため、平成30年4月、野菜を栽培し地域のこども食堂等に無償で提供する「鶴見区シニアボランティアアグリ」が立ち上げられた。参加者は、収穫の達成感や地域貢献を通じた充実感を味わうとともに、子供からの感謝の声が高齢者のモチベーションとなっている。

### (トピックス4) 誰もが健やかに暮らせる地域づくりの取組事例

奈良県川上村では、誰もが健やかに暮らせる村づくりを目指して、平成29年4月より移動販売の機会に「コミュニティナース」が同行し、地域の診療所等と連携して早期診察や早期治療指導につなげる取組を開始している。健康体操を継続的に行うなどの取組により、低い介護保険料を実現した。